

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	村城 正	法人・ 事業所 の特徴	お年寄りから子どもまで、みんなが安心して暮らせる地域や町であってほしい。それが私たちの願いです。という目標を持ち、グループホーム・小規模多機能・地域サロン・子ども食堂等を運営しています。
事業所名	あすならホーム柳本	管理者	植田 恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	人	1人	人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価を行うことにより日々の業務の中では気づけなかったことに気づくことができた。良いことは継続しできていないところは改善していく。また、日々意見や改善点が言いやすい状況をつくり収集していく。 職員の業務優先である状況を考え直し余裕を持って利用者に関われるよう話し合っていく。	日々の業務について振り返ることができた。まだ足りない点は有るが、月1回の業務会議の実施や毎朝の全体朝礼、日々の業務の中で意見や改善点が話しやすい環境に変わってきている。	職員全体で取り組みができており、意見が反映されている。前回の改善計画に対する前向きな取り組みができています。改善点が明確化され計画が立てられているところは評価する。	引き続き意見や改善点が話しやすい風通しのよい職場環境を作っていく。 利用者をもっと知る努力をし、関わりを今以上に深める。利用者本位のケアの充実を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後も誰もが足を運びやすい事業所であり続ける。 地域の声にしっかり耳を傾ける。	誰もが足を運びやすい事業所としてのあり方は継続できている。	前回の改善計画に対する取り組みに対して自己評価を見る限り十分取り組めていないように感じた。 地域住民が入りやすい。居心地がよい。	誰もが足を運びやすい事業所としてのあり方の継続と、地域に根ざした事業所になれるよう今以上の取り組みが必要。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事やイベント情報を収集し、計画を立てて参加していく。 職員全員が地域と顔なじみになれるようにする。	公民館から声かけを頂き高齢者学級に参加し、健康教室を実施。月6回のランチ実施により職員が地域の方と顔なじみの関係を深めることができた。	前回の改善計画に対する取り組みに対して自己評価から積極的に取り組んでいると見られない。 職員の態度はよい。地域の中で知られるようにはなってきている。	地域行事に参加する計画や実行がまだ足りないため引き続き地域にでかける活動に取り組む。地域の困っている方に気軽に声をかけてもらえる件数を増やす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	駅掃除の継続。 利用者と一緒に地域行事やイベントに参加する機会を多く作る。	駅掃除の継続ができた。 利用者の地域行事への参加はまだ少ない。	近隣の困っている方に対する対応ができています。事業所があることで地域住民としては安心して暮らせる。	駅掃除の継続。 住み慣れた地域との関わりが切れないように取り組むことに力を入れる。地域資源の把握ができるように情報集収を行う。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の進め方を再検討して地域課題や地域の方の要望を引き出せる会議に変えていく。 ・座席を検討（地域と事業所を分けて交えた座席にする。） ・地域の方が話しやすい項目を設ける（地域の行事やイベントを会議で地域の方に教えてもらう。）</p>	<p>運営推進会議のメンバー構成や内容を再度検討し、地域の方や家族の意見や希望を話して頂ける場になるよう取り組んだ。地域行事やイベント情報を教えてもらい参加。（高齢者教室への参加、地域運動会への誘い）運営推進会議に市役所や包括職員の参加がほとんどなかった。</p>	<p>事業所の取り組みについての説明がわかりやすい。地域の困っておられる方の事例検討が行われていた。</p>	<p>決まった職員ではなく全員が運営推進会議に参加できるようにする。地域の方や家族の意向を踏まえて運営推進会議のあり方を都度検討していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>運営推進会議に地域の消防団の参加・協力を求める。</p>	<p>地域の消防団に運営推進会議への参加・協力が求められなかった。備蓄や訓練の継続ができた。</p>	<p>事業所の災害訓練に参加し学習ができた。AED講習ができて良かった。災害時には頼りになる事業所であると思う。</p>	<p>運営推進会議に地域の消防団の参加・協力を求める。</p>